

広島電鉄の最近の取り組みについて

広島電鉄株式会社

電車事業本部

1. はじめに

広島電鉄株式会社の電車事業は、広島市内を走る軌道区間 19.0km と広電西広島～広電宮島口を結ぶ鉄道区間 16.1km を合わせた、計 35.1km を 8 系統で営業しています。

車両数は、単車 70 両、連接車 62 編成で、1 日平均 15 万 4 千人のお客様にご利用いただき、軌道区間では国内最多の 1 日平均 10 万 6 千人の利用者数を誇っています。(平成 26 年 3 月末現在)

1960 年代に入るとモータリゼーションの進展で、路面電車を廃止する都市が相次ぎました。当社も輸送人員が減少し、廃止の危機に立たされましたが、電車存続の方針を打ち出してからは、廃止された各都市の電車を譲り受け、輸送力の増強により都市輸送の立て直しに努めました。1971 年 12 月に、県公安委員会の行政措置として、自動車の軌道敷内乗り入れ禁止が実施されたことにより、定時制の確保によって輸送人員が回復し、その後の様々な施策を実施することで、都市輸送の一翼を担えることが出来ました。

現在では、路面電車の走行環境や車両等をグレードアップさせ人と環境に優しく経済性に優れた公共交通システムである LRT (Light Rail Transit) 交通システムの構築へ向けて、超低床車両の導入、交通結節点の改善、ロケーションシステムの高度化等、設備とサービスの向上に努めています。

▼広島電鉄路線図



2. LRT化への取り組み・サービス向上に向けた取り組み

(1) 超低床車両の導入(平成11年6月～)

LRT化の実現に向けて、平成11年6月からドイツ・シーメンス社製の超低床車両5000形グリーンムーバーを12編成導入し、平成17年3月からは近畿車輛・三菱重工業・東洋電機製造製の国産初の完全超低床車両5100形グリーンムーバーマックスを10編成導入しました。

運用区間は基幹路線である1号線(広島駅～紙屋町東～広島港)及び2号線(広島駅～広電西広島～広電宮島口)で運行しています。

▼グリーンムーバー



▼グリーンムーバーマックス



(2) 1000形超低床車両の導入(平成25年2月～)

5000形及び5100形の車両は、30m級の大型車両のため一度に多数の利用者を輸送できますが、大型車両が停車できる電停設備が整っていない路線では恒常的な運行ができないため、沿線の利用者より「超低床車両を運行して欲しい」との要望があり、平成25年2月15日に18.6mの1000形車両を2両導入しました。

平成25年2月15日より営業運行を開始した1001号、1002号は、広島電鉄電車開業100周年記念車両と位置付け、外観カラーを開業当時の100形をベースに「アニバーサリー・レッド」としました。名称は1001号を「PICCOLO ピッコロ(伊語の形容詞「小さい」の男性形)」、1002号を「PICCOLA ピッコラ(同女性形)」と名付け、これからの未来を創造していく子供達を車両の愛称としました。

また、平成26年2月1日より営業運行を開始した1003号以降の車両は、

「Light Excursion(小旅行・周遊旅行)」の頭文字を取り、グリーンムーバーLEXと名付け、まちなかを軽快に楽しく移動する超低床車両としてデビューしました。

1000形(全長18.6m)の導入により、全ての路線において超低床車両の運行が可能となり利便性の向上が図られました。

▼ピッコロ



▼グリーンムーバーLEX



(3) 交通結節点の改善

○広電西広島停留場(平成13年11月)

広電西広島停留場は、鉄道と軌道が接続する駅で、以前は別々のホームで乗降を行っていましたが、軌道側の停留場を鉄道側のホームに統合したことで、同一ホームでの乗り継ぎが可能となり、鉄道-軌道の二段階停車が解消されました。

この整備にあわせて、これまでの駅舎にない巨大なドーム型屋根を設置することで開放感溢れる空間を演出し、憩いの場の提供、地域のランドマークの創出を図りました。この巨大なドーム型屋根の斬新なデザインと開放感溢れる空間づくりが高い評価を得て、その後の広島の交通結節点モデルとなり、横川駅電停や広島港電停における交通結節点の改良へとつながりました。

▼広電西広島停留場



○横川駅停留場(平成15年3月)

横川駅周辺は、JR山陽本線・可部線、路線バス、路面電車が集中する交通結節点でありながら、JR横川駅と路面電車の横川駅停留場が約250m離れており、利用者に不便を与えていましたが、横川駅を広島駅・西広島に次ぐ都心部への第三の玄関口とするべく、国土交通省、広島市、広島県警察本部、JR西日本等と協力し、停留場を駅前広場内へ移設し、駅前広場内へ路面電車を乗り入れることで、JR改札口と停留所までの移動距離が約50mに短縮されました。

▼横川駅停留場



○広島港停留場(平成15年3月)

広島県の港湾事業で、新広島港宇品旅客ターミナルが以前の広島港停留場より約250m離れた位置に建設されるのにあわせて、停留場施設を終端部の新旅客ターミナル前に移設することで、海上・陸上の交通結節点として整備を行い、旅客船との乗り継ぎ利便性が向上しました。

▼広島港停留場



▼交通結節点の改善整備



この地図は、国土院発行の地形図を引用したものです

(4) ロケーションシステムの高度化(平成20年2月～)

従来のロケーションシステムでは、案内表示が行先の頭文字のため、初めての利用者には分かり難く、到着時間も正確にわからない上に、どのような車両が来るのかも分からない状況でした。

ロケーションシステムの高度化では、行先の名称と号線を表示するとともに、「到着時間」・「電車の種類」・「英語表記」・「自然災害時の緊急情報時」等、多種多様な情報をリアルタイムに表示し、利用客の利便性、安全性の向上を図っています。

(整備箇所 市内線12箇所、宮島線11箇所、その他1箇所)

▼以前のロケーション表示器



電車の接近のみ表示



▼新ロケーション表示器



到着時間表記



車種表記



英語表記

(5) 電車運行情報提供システム(平成24年3月～)

電車ロケーションシステムの情報から、各電停における全車両の電車到着予測時間を、パソコンや携帯端末で確認する情報提供サービスを導入しました。平成24年3月に市内線における運用を開始し、平成25年3月より宮島線の運用を開始しました。

▼ 位置情報表示画面（パソコン画面）



▼ 携帯電話表示画面



3. 路面電車の観光資源化

○ラッピング電車の運行

広島市の観光スポットをラッピングした観光インフォメーション電車をはじめ、地元3大プロ(広島東洋カープ、サンフレッチェ広島、広島交響楽団)を応援するカープ電車、サンフレッチェ電車、広響電車のラッピング電車を運行し、車内には選手等の音声案内を放送するなど、地元を挙げて応援するとともに路面電車の観光資源化に努めています。

また、昨年度は「1001号ピッコロ」と「1002号ピッコラ」を使用したラッピング電車を運行しました。夏には夏の星空をイメージしたラッピングを施し、冬には雪の結晶や赤い大きなリボンを基調とした電車1両がまるごとプレゼントのようなラッピングを施し、車内にはクリスマスやバレンタインの装飾で飾り付けるなど、外から眺めて楽しい電車だけではなく、乗車してからもワクワクしていただけるような電車として運行しました。

○イベント電車の運行

夏の七夕シーズンには、車内に沿線幼稚園の園児たちが作成した七夕の装飾を飾り付ける七夕電車、クリスマスシーズンには、200形ハノーバー電車を電飾等で飾り付けたクリスマス電車を運行させ、抽選で選ばれた親子が乗車し、車内で子供たちがサンタに変身したり、クイズ大会などのイベントを実施したり、楽しい

ひと時を過ごしていただいています。

▼七夕電車 車内の様子



▼バレンタインラッピング



▼カープ電車



▼クリスマス電車 車内の様子



4. おわりに

現在の少子高齢化の状況下において、当社が今後も市民の足として存続するため、電車のみならず、様々な交通モードを複合させた、誰もが利用しやすい新しい時代の公共交通体系をつくり上げていき、安全で快適に暮らすことができる街づくりに対して、当社が担うべき役割を果たしていきたいと考えております。